

浅間山公園で見られる野鳥

■ 参考になる図鑑サイトの一例

調べる基本は、図鑑や解説書ですが、インターネットで検索してみると、写真・動画・解説や説明など、様々な情報が得られます。たくさんありますので、初めは、手軽に総合的な情報が得られるサイトを利用するとよいでしょう。

一例として、「サントリーの愛鳥活動 > 日本の鳥百科」を紹介します。



<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/>

※ 右のQRコードをタップしてもリンク先に接続されます。

※ 接続端末をシステムが判定し、対応したサイトに自動的に接続されますので、このURLを利用すれば問題ありません。



■ 野鳥観察の楽しみ方や観察のポイントについては、次のページからの解説をお読みください。

○楽しい野鳥観察

野鳥観察は、端的に楽しいものです。でも、その楽しさには広がりがあり、様々な楽しみ方があるとも言えます。

いくつかの観点から考えてみましょう。

○季節

今は、通年見られる留鳥に加えて、夏鳥（寒い冬を日本の国内あるいは国外の南方で過ごし、温かくなった春から初夏にかけて飛来する野鳥）も見られるようになり、観察できる種類数が増える季節です。

夏鳥の中には、これから更に、北方あるいは標高の高いところへと移動していくものもありますので、見られる鳥の種類も変化していきます。

○環境

浅間山は、ここだけを見ると、基本的には森林ですが、周辺は市街・住宅地ですので、広がりを考えることが大切です。

また、森林といっても、長らく人々が様々な形で手入れをし、その資源を利活用してきた歴史的な経緯から、雑木林と位置付けられるもので、これも自然の一つの姿です。

そこで、今も、その環境が保たれるように維持管理されています。

○繁殖

今は、樹木の新緑が美しい頃ですが、これらの木の葉を食料とする様々な虫が活動を始めています。すると、野鳥の中には、これを餌として利用して子育てをし、繁殖するものがあります。シジュウカラなどは、その代表と言えます。

この食べる・食べられる関係がバランスよく続くことで、樹木も虫も野鳥も共存する世界が出現していることになります。

シジュウカラは、古い樹木にできる洞穴に巣を作ることが多いのですが、適応性が高く、穴があれば地べたでも人工物でも利用します。公園内の樹木にかけられた巣箱にも、利用されているものがあるかもしれません。

○姿

雄と雌を見分けることができる種と、見分けがつかない種とがあります。

一般に、雄と雌の見分けができる種では、人間が見ても美しいと感じるほどに、雄の羽の色や模様が目立ちます。これは、天敵に対しても同じ効果を上げることになり、その分、身の危険も高まることとなりますが、繁殖の目的を優先しているものと考えられます。

これに対して、雌は地味な色や模様であるものが多く、繁殖の際の安全を優先しているものと考えられます。

どちらも種類を見分け、特定する上で重要な情報です。しかし、種類によって、体のどの部分にどのような特徴が見られるかは実に様々なので、覚えるまでは大変です。

それでも、仲間によっては、特徴が似ていて、それでいて少しずつ異なるといったことがあるので、こういった点を頼りに覚えていくのもこつの一つと言えます。

例えば、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒガラ、コガラ、エナガなどについては、姿（色、模様）、大きさ、鳴き声、すんでいる環境（標高）などが、それぞれに異なります。

○鳴き声

一般に、繁殖期に特有の「さえずり」と、通年耳にする「地鳴き」とがあります。これ以外に、危険に対して警戒する鳴き声を発することもあります。

「さえずり」には、繁殖のための縄張り宣言や、雄の雌に対する求愛などの意味合いがあります。

「地鳴き」には、「さえずり」以外の様々な意味が込められていますが、中には「独り言」や他の種類の野鳥の「鳴きまね」といったものもあります。

○見つけ方

姿と鳴き声の両方から見つけるのがこつです。

「鳴き声」 声のする方向をよく聞き分け、目でも追いかけて、範囲を絞り込んでいきましょう。

「姿」 一般に、野鳥は、人間の姿や声などの気配を敏感に感じ取り、危害を加えられないように、常に警戒しています。そのため、基本的に距離をとり、木の枝や葉などの物陰に隠れるように行動しています。「声はすれども姿は見えぬ」といった状

態です。

それでも、一定のところに留まっても、様々な方向に対して警戒するために、体の向きや位置を変えることがあります。それは風にそよぐ木の葉の動きとは異なることが多く、それをたよりに見つけ出すのがこつの一つです。

また、仮に縄張りを持っていても、ずっと同じところに留まることは少なく、縄張り内を移動していきます。木の枝や葉などの物陰に隠れていても、この瞬間は、それらのすき間から姿を見せることになるので、これを捉えるのもこつの一つです。

双眼鏡で観察するには、まずは耳や目を頼りに鳥の姿やその方向を見定めます。次に、その視線を動かすことなく、視線方向に双眼鏡を合わせるようにするのがこつです。あらかじめ動かない物を目標にして練習しておくといいでしょう。

○参考になる図鑑サイトの一例 (※ 冒頭にも掲載した同じ内容です。)

調べる基本は、図鑑や解説書ですが、インターネットで検索してみると、写真・動画・解説や説明など、様々な情報が得られます。たくさんありますので、初めは、手軽に総合的な情報が得られるサイトを利用するとよいでしょう。

一例として、「サントリーの愛鳥活動 > 日本の鳥百科」を紹介します。

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/>

※ 右のQRコードをタップしてもリンク先に接続されます。

※ 接続端末をシステムが判定し、対応したサイトに自動的に接続されますので、このURLを利用すれば問題ありません。



これを利用して、下見の際に見聞きした野鳥について調べてみると、結果は以下のとおりです。

○2022年5月1日 10:00~12:00 下見の際に見聞きした野鳥

シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、キビタキ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、カルガモ

シジュウカラ



<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/1430.html>

ヤマガラ



<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/4085.html>

メジロ



<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/1500.html>



キビタキ

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/1414.html>



ヒヨドリ

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/1482.html>



ハシブトガラス

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/4611.html>



カルガモ

<https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/4537.html>

さて、5月7日、当日は、どんな野鳥に出会えるでしょうか。